

# 周作クラブ会報

(第62号)  
2016年2月20日発行

周作クラブ

## ◆主な記事◆

新年会レポート	2・3面
原稿再録・お知らせ	4面
連載・原点の旅	5面
長崎文学館便り	6・7面
長崎便り	8・9面
お知らせ	10面

## 遠藤周作没後20年 & 『沈黙』 刊行50年 2016年の主な関連行事

2016年は、遠藤周作没後20年であり、同時に代表作『沈黙』が刊行されて50年を迎える節目の年です。すでに様々なイベントが企画され、また多くの出版物の刊行も予定されています。そこで、この1年の主な予定をご紹介します。

### 遠藤没後20年のイベントについて

■国際シンポジウムの開催(予定)  
まずは、遠藤周作文学館のある長崎市で、遠藤文学に関する初の国際シンポジウムの開催が予定されています(主催・



1985年頃、樹座のパーティーで

■音楽座ミュージカル  
ラボシアター「泣かないで」公演(遠藤周作没後20年記念)  
これまで公演を重ねてきた遠藤周作『わたしが・棄てた・女』を原作とした音楽座のミュージカル「泣かないで」が、三日間だけ(3月11日(金)から13日(日)まで)上演されます。東京・町田の音楽座・芹が谷スタジオを使った特別公演です。客席と舞台が同じ平面

遠藤周作文学館/遠藤周作学会)。開催期日は8月19日(金)から21日(日)まで、長崎市内にある「ブリックホール」と「長崎市遠藤周作文学館」などが会場となります。  
初日となる19日に遠藤周作学会があり、翌20日には講演と記念シンポジウムが予定されています。  
そして最終21日には、オペショナルツアーとしての長崎文学散歩が計画されています。

になる、意欲的な試みが話題となるでしょう。(詳細については本報最終ページ参照)

### ■増補新版文藝別冊・遠藤周作

没後20年を記念して、河出書房新社から遠藤周作特集ともいえるべき「文藝」別冊が、3月11日に刊行されます。前回の「別冊・遠藤周作」でも未公開の日記が掲載されて話題となりましたが、今回は若き日に遠藤周作が綴ったラブレター(フランス留学の最後の時期)も収録して、これまでに明かされなかった遠藤周作を読者は知ることになるでしょう(詳細は本報最終ページ「お知らせ欄」をご覧ください)。

### ■町田市民文学館開館10年記念

鼎談と朗読  
遠藤周作・若き日の恋文  
前記の河出書房新社版「文藝」別冊の刊行に合わせて、町田市民文学館では記念イベントが開かれます。ソルボンヌ大学哲学科の女子学生フランソワーズ・パストゥールに宛てられた遠藤周作の手紙に焦点を当て、鼎談と、手紙の朗読などが行われます。

### ■朝日カルチャーセンター(新宿)

没後20年記念としての遠藤周作特別講座が、4月から6月にかけて計4回の開催が予定されています。  
(町田市民文学館、朝日カルチャーにも詳細は本報「お知らせ欄」参照)。

### ■『沈黙』刊行50年に関連すること

ハリウッド映画「沈黙」の公開

アカデミー賞受賞経験もある監督マーチン・スコセッシによる映画『沈黙』は、記者発表以来長い年月が経ってファンも気をもんできましたが、ようやく日本でも今秋に公開されるといふ情報が届きました。日本人の出演者も窪塚洋介さん(キチジロウ役)と浅野忠信さん(通辞役)などが伝えられています。遠藤文学の翻訳家でもあるヴァン・ゲッセル氏は、スコセッシ監督から小説『沈黙』の細部についての相談を受けた際、その映画台本を読む機会を得て、「じつに素晴らしい出来栄え」と感嘆していたことから、大いに期待できます。

### ■遠藤周作文学館 第9回企画展

刊行から50年——遠藤周作『沈黙』と長崎  
今年5月の「遠藤周作原点の旅」(周作クラブ)でも訪ねる長崎市遠藤周作文学館の企画展は、やはり『沈黙』が主題となります。期間は、5月21日から2018年5月まで。  
なお、同文学館からは、

### ■刊行50年記念・限定バージョン『沈黙』(ハードカバー版)

が夏ごろに発売されます。遠藤周作文学館の売店でのみの販売で、普通に購読できるハードカバー版とはまったく違うカバーのついた貴重な『沈黙』です(新潮社版)。

また、遠藤周作の母校である慶應義塾大学出版会からも、『沈黙』に通じる作品を中心とした『遠藤周作短篇集(仮題)』の出版が予定されていて、今年は出版を初めとする各方面で遠藤周作の人と文学が注目を集めることになりそうです。

(編集部記/写真・稲井勲)